令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の特徴（和歌山県）

1 教科に関する調査結果

(1) 和歌山県（公立）と全国（公立）の平均正答率

単位：%

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
県	68	64	55	50
全国	68	63	58	53

※平成28年度からは、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答率については整数値で示している。

(2) 和歌山県（公立）平均正答率と全国（公立）平均正答率との差の推移

単位：pt(ポイント)

	小学校国語		小学校算数		中学校国語		中学校数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
H28	-3	-2	-1	-1	-2	-4	0	-1
H29	0	-1	0	0	0	-2	0	0
H30	1	0	-1	-1	-1	-2	1	-2
H31(R1)	0		-1		-3		-1	
R3	0		0		-4		-2	
R4	-1		0		-3		-1	
R5	1		0		-3		-1	
R6	0		1		-3		-3	

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により実施見送り。

※平成31年度からは、全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のAB区分がなくなっている。

(3) 調査結果の特徴

小学校は、国語が全国平均と同程度の結果となり、算数は全国平均を上回った。
中学校は、国語、数学ともに全国平均を下回った。

○成果

- ・小学校国語では、「知識及び技能」の平均正答率が全国平均を上回った。
- ・小学校算数では、「数と計算」、「変化と関係」、「データの活用」の平均正答率が全国平均を上回った。

●課題

中学校国語、数学では、特に記述式問題において、以下の課題がある。

- ・話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめたり、目的に応じて必要な情報に着目して要約したりすること（国語）
- ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したりすること（数学）

2 質問調査結果

○成果

- ・「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合が、全国を上回った。
【全国差 小国語+2.2pt、小算数+4.0pt、中国語+2.1pt、中数学+2.0pt】→概要 P5(1)②
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合が、全国を上回った。
【全国差 小学校+1.8pt、中学校+0.3pt】→概要 P9(6)①

●課題

- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合が、全国を下回った。
【全国差 小学校-0.7pt、中学校-5.0pt】→概要 P7(2)⑤
- ・「5年生まで（中学校：1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用した」と回答した児童生徒の割合が、全国を下回った。
【全国差 小学校-11.5pt、中学校-9.8pt】→概要 P7(3)①